



編集・発行
日蓮宗 能勢妙見山
広報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

教えることは

教えられること

日 慧

日蓮宗では、お坊さんになるために、誰もが入らなくてはならない修行の場があります。身延山に開設される修行道場です。

五月から六月末までの三十五日間、私は修行道場で修行僧の指導に当たってきました。ここを修了すれば日蓮宗の僧侶として巣立つていくのです。あれも伝えたい、これも身につけて欲しいとの思いは高まるばかりです。ひと月余りという期間は余りにも短いと感じました。

それにつけても思うのはこの前勤めてから七年間という歳月が経過していると

いうことです。入場から十日経った頃奥之院思親閣への登詣があります。ロープウェイに乗ればわずか七分の山上ですが、太鼓を打ちお題目を唱えながら、足並みそろえて歩いて登るので

す。先頭は私です。初めは声高らかに足取りも力強く進みますが、半分も行かないうちに道は険しくなり、行列の足は重く息も絶え絶えになります。こんな時こそ先頭で道場生を元気づけるのが、指導者たる私の見せ所なのですが、残念ながらこちらも息が上がってそれどころではありません。七年前とは大違いです。

そんな時です。後ろから聞こえる道場生の声は段々大きくなっていくではあり

ませんか。あとで聞いたことですが、道場生たちもこれ以上はだめだと思いい、只ただお題目の力に縋ろうと考えたそうです。すると、不思議なことに声が大きく出るようになり、足が軽くなってきたというのです。道場生たちの大きな声に押されるように、私も山上へ無事到着することができました。

「妙とは蘇生の義なり」と宗祖は説かれています。力尽きようとする私たちが共にお題目を唱えることにより、助け合い支え合う力を戴くことができたのです。教えることは実は教わることです。修行とは特別な場での一時的なものではありません。日々の生活そのものが実は修行であり、その中で互いに教え教えられることが修行だと改めて実感した三十五日間でした。

九月三日

午後一時より

ハ朔祭

能勢浄瑠璃の
人形による
開運餅まき

はっ さく さゆ

のこまきせ!!

- ★ 開運祈禱 終日
- ★ 法話 十一時〜
- ★ 奉納芸能 十二時半〜

【8月の主な行事】

★登山靴供養会 11日(祝)11時半
※同時開催
能勢妙見山 山の日フェスタ

★写経会 13日(日)11時
写仏もできます。

★月例祈願法要 15日(火)13時

★星嶺演奏会 20日(日)11時

★星嶺茶論 20日(日)13時
お題目の太鼓練習です。

★五蘭盆会施餓鬼法要 22日(火)13時

★鷗様月例祭 22日(火)15時

【9月の行事予定】

☆八朔祭 3日(日)終日祈禱
御祈禱を受けた方に
「八朔田之実御守」を授与

11時 法話

12時半 奉納芸能
14時 開運餅まき

★写経会 10日(日)11時
写仏もできます。

★月例祈願法要 15日(金)13時

★星嶺演奏会 17日(日)11時

★星嶺茶論 17日(日)13時
お題目の太鼓練習です。

★秋季彼岸会 22日(金)13時
ご先祖等のご回向

★鷗様月例祭 22日(金)15時
《交通のご案内》
◆ケーブル&リフト毎日運行中

食への感謝

栗原啓文

「昨今、飲むだけで痩せるサプリ、付けるだけでお腹が引き締まるベルトなどダイエットに関する新商品が続々発売されている。それだけ日本人の美意識が高まっているということなのだが、実は私自身も一百日荒行の後の反動で暴飲暴食に走ってしまい、体重が十五キロ増え、必死で減量した経験がある。毎日スポーツジムに通ったがなかなか体重は減らなかつた。そんなある日、私は一冊の本に出会った。その本のタイトルは『運気を上げる神様ごはん』。この本の著者は京阪線樟葉駅から徒歩十分ほどの場所にあるお食事処の店長C氏。このお店を訪れたお客さんが、難関大学の受験に合格したり、苦手な食材が食べられるようになったりといった体験をす

ることから、C氏は開運料理人と呼ばれている。詳細はここでは割愛する

が、その本の中でひととき私の印象に残った一文がある。それは「料理とは食材の命に人間が心をこめて、人間の命に変わる光を引き出す儀式。その光が燃え上がり、それを食べる人間の命の炎となってくれます。それを考えた時、ああ、ありがたいなあ」という気持ちになるはずです。」この一文を読んで私は、自分の空腹を満たすために食事をしていただけに気が付かされた。そしてそれ以降は食に感謝し、節制した結果体重は減っていった。

日蓮聖人は『事理供養御書』の中で「人は食によって生あり、食を財とす。いのちと申すものは、一切の財の中に第一の財なり」とお示しになられている。人間は食によって生を維持しているのだから、食こそが

八月といえばお盆。お盆というと、ご先祖様が帰ってくる日というイメージが強いが、元々は「盂蘭盆（うらぼん）」といい梵語のウランバーナ（逆さづりの苦しみ）の音写と言われる。

苦しみとは餓鬼道の苦しみのこと。その昔お釈迦様の十大弟子の

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

一人である目蓮尊者の亡き母が餓鬼道に落ちて苦しんでおり、お釈迦様の助言で全ての餓鬼に供養する法要を行い救われた故事に由来する。

お盆には、帰ってきたご先祖様に供養するだけでなく、全ての精霊に供養するという気持ちが大切だ。

U.K

暦のあれこれ

二十八宿

二十八宿は元々古代中国で発展した東洋占星術のひとつで、地球の黄道上にある二十八の星座を使って吉凶判断をするものです。発掘された高松塚古墳の天井にも二十八宿の図が描かれており、目にされた方もおられるでしょう。

この二十八宿ですが、日蓮宗の暦では一つ少ない二十七宿になっています。それは二十八宿が中国からインドに伝わった時、インドでは牛は神聖視されていたため、二十八宿の一つ牛宿が日の配当から外されたと言います。そしてインドで二十七宿として使われたものが、中国に逆輸入され、日本に伝わったのです。つまり日蓮聖人の御在世は二十七宿だったのです。貞享の改暦（一六八五年）後は二十八宿となりましたが、本宗の暦では今も二十七宿として使っております。

俳壇

（みのり）

連山の空澄み渡り秋立ちぬ
門火焚く老も幼も打ち揃ひ
たつぷりと雨吸ひ込みし苔の庭
ジーパンの膝すり切れし夏休み
大皿にサラダ盛りれし夏の卓